

言葉に関わる言語中枢

リハビリお役立ち講座
～言葉に関わる脳～

言葉を正確に話し、聞いて理解したりするためには、中心的役割をする脳の部分があります。今回は脳のどの部分が言葉と大きく関わっているのかについてお話してみたいと思います。

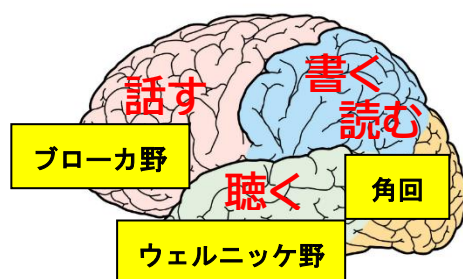
脳には言語に関わる部位があり、その部位を「言語中枢」といいます。多くの場合、左大脳半球にあるといわれています。言語中枢はブローカ中枢とウェルニッケ中枢に分かれます。この2つの言語中枢について説明します。

言葉を理解するためのウェルニッケ中枢

耳から入った言葉は聴神経を経て聴覚中枢にたどり着き、ウェルニッケ中枢に伝達されます。そこで言葉を理解しています。人の言う言葉の理解のみではなく、自分の頭の中の考えを言葉として組み立てることもおこなわれています。

言葉を発するためのブローカ中枢

話そうとするときはまずはウェルニッケ中枢が話し言葉の元となる文章の構成をおこない、弓状束という神経経路を經由してブローカ中枢に伝達されます。ブローカ中枢は話すために必要な運動を発語器官の筋肉に伝達し、言葉として発します。その間、ウェルニッケ中枢は発話に関わる筋肉の動きを監視し、言葉が正しく伝わっているかどうかを確認します。



失語症は損傷された脳の部位や損傷の大きさによって言語症状が変わります。言語聴覚士は患者さんやご家族の方の希望に応じて面談や検査を行い、それぞれの症状に合わせたリハビリテーションを実施します。

言語聴覚士
平村 敬寛



コミ白リハビリ
キャラクター
スピオ